

災害時の「食べる」を支える 計画は活かされたのか、活かされるのか

(一社)岩手県歯科医師会
会長 佐藤 保

災害時の『食べる』を支えるシンポジウム 2016年3月12日、東京医科歯科大学

災害時における歯科医師の役割

- ご遺体の身元確認作業
- 災害地における歯科医療の確保
- 避難所における肺炎予防、口腔ケア

佐藤保、災害時の『食べる』を支えるシンポジウム、2016年3月12日、東京医科歯科大学

生きることは食べること、 食べることは生き続けること

佐藤保、災害時の『食べる』を支えるシンポジウム、2016年3月12日、東京医科歯科大学

「食べる」を支える関係構築の 実践について

- ・ 栄養士会との共同宣言
- ・ 言語聴覚士、栄養士とケアマネへの発信
- ・ シンポジウムの共同開催
 そこで歯科医師会は何を話したか
 国の計画作りへの参加から学んだこと

佐藤保、災害時の『食べる』を支えるシンポジウム、2016年3月12日、東京医科歯科大学

2009年 健やかに「食べること」の概念

食文化

健康づくり 地域づくり

口腔機能
摂食・咀嚼・嚥下の評価

消化・吸収機能
排泄の評価

運動機能
体力・筋力の評価

栄養・食育

健康教育
食品の選択力
咀嚼力
運動力
価値観育成

心の栄養
おいしい・楽しい
共食・仲間
豊かな心

乳幼児期(基礎づくり)
 ・食べる機能に応じた離乳食・幼児食
 ・食品の選択力・咀嚼力を身につける

成人期(生活習慣病予防)
 ・心身の発達に応じた食品の選択力
 ・よく噛んで生活習慣病予防をする習慣力

高齢期(介護予防)
 ・口腔機能を維持する力
 ・心身の機能に応じて食品を選択できる力
 ・心身の機能に応じて楽しく安全に食を味わう力

(社)日本栄養士会作成

佐藤保、災害時の『食べる』を支えるシンポジウム、2016年3月12日、東京医科歯科大学

日栄と日歯の連携について(案)

～「食べること」を支援する取組の推進に向けて～

生涯を通じた「食べること」を専門職として積極的に支援します！
 「食べる機能を育むこと」、「食べる機能を維持すること」、「食べる機能を回復すること」は、生涯を通して健やかに生き生きと心豊かに生活するため重要です。私たち、日本栄養士会と日本歯科医師会にお任せください皆さまの「食べること」をサポートします。

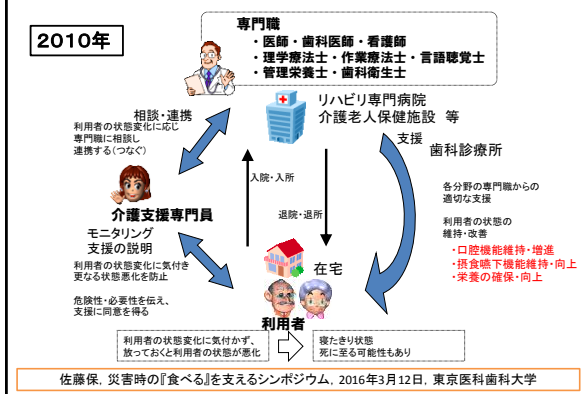
～「食べること」の機能を育むために～
子ども(乳幼児)の一人ひとりの発達に応じて支援します。
 乳幼児期における離乳食や幼児食を通して、子どもたちは「食べる機能」を育んでいます。この時期に食べる機能を育むことは、健康を維持し、成長・発達を促し、健やかな生活習慣の形成につながります。**食べる機能を育む「咀嚼力」を支援します。**

～「食べること」の機能を維持するために～
成人の一人ひとりの栄養状態等に応じて支援します。
 「食べる機能」を活用し、3度の食事に必要な栄養の質と量を自ら選び、良く噛むことは、生活習慣病とう蝕・歯周病、口臭予防につながります。**食べる機能を維持し、メタボを予防する「食の選択力」を支援します。**

～「食べること」の機能を回復するために～
高齢者の一人ひとりの食べる機能に応じて支援します。
 「食べる機能」が落ちてきたときに、そのままにしておく、疾病が重症化したり、要介護状態に陥りやすくなるなど、生活の質の悪化につながります。食べる、飲み込む**機能の回復を図り、食べる機能に応じた、専門職の適切な支援が大切です。食べる機能を向上し、安全に食べる楽しみが得られる「味わい力」を支援します。**

佐藤保、災害時の『食べる』を支えるシンポジウム、2016年3月12日、東京医科歯科大学

口腔機能向上・栄養改善における連携図



日本栄養士会・日本歯科医師会第3回共同シンポジウム
食べることは生きること
—災害時での対応—

平成24年1月21日(土)
 (社)日本歯科医師会
 常務理事 佐藤 保

佐藤保, 災害時の『食べる』を支えるシンポジウム, 2016年3月12日, 東京医科歯科大学

岩手県歯科医師会・災害支援活動

避難所内に仮設歯科診療所を設置

3月12日、岩手県歯科医師会東日本大震災対策本部が設定され、「被災された方々の健康管理」「被災地域における歯科医療確保」「犠牲者の方々の身元確認協力」等々の支援活動中。(3月16日撮影、撮影者岩手県歯科衛生士会赤坂鏡子)

陸前高田市街地

佐藤保, 災害時の『食べる』を支えるシンポジウム, 2016年3月12日, 東京医科歯科大学

いわて災害医療支援ネットワーク

避難所が多数で広範囲にわたるため、大きな人的医療資源を有する関係機関が連携し、隙間のない継続的な支援体制を構築

1 運営体制等
 岩手医大、県医師会、日赤、国立病院機構、県医療局、岩手県、の6機関が災害対策本部(県庁4階)に参集し、地域の要請をもとに医療チームの派遣、医療機関の支援等を行う。←3月20日より**県歯科医師会参加**

○各主体は、各自治体等と連携の上、担当地域内の情報をネットワーク会議に報告、情報共有し、調整のうえ必要な対応を実施

表出する様々な課題
 小規模避難所の把握
 搬送する市町村職員
 何かが不足し、何が足りている
 被災する支援
 その中での連携と調整
 [夕方の定例会議]

佐藤保, 災害時の『食べる』を支えるシンポジウム, 2016年3月12日, 東京医科歯科大学

今までの災害医療体制は、

- 阪神・淡路大震災を契機に、①災害拠点病院の整備、②広域災害・救急医療情報システム(EMIS)の整備、③災害医療派遣チーム(DMAT)の養成が行われ、
 - 平成18年医療法改正により、医療計画の記載のうち、5事業(救急医療、災害時における医療、へき地医療、周産期医療、小児医療)の1つに位置づけられ、
 - 平成20年度からの第5次医療計画に基づき、各都道府県で整備が行われている。
- 佐藤保, 災害時の『食べる』を支えるシンポジウム, 2016年3月12日, 東京医科歯科大学

災害医療の位置づけ(災害対策基本法/防災基本計画)

○災害対策基本法(昭和36年法律第223号)(抜粋)

第3条(国の責務)
 防災に関する計画の作成・実施、相互協力等

第11条(中央防災会議の設置及び所掌事務)
 中央防災会議の設置、防災基本計画の作成・実施等

第34条(防災基本計画の作成及び公表等)
 中央防災会議による防災基本計画作成および検討・修正

○防災基本計画(平成20年2月18日中央防災会議決定)(抜粋)

○国、日本赤十字社及び地方公共団体は(中略)災害時における拠点医療施設を選定するなど、災害発生時における救急医療体制の整備に努めるものとする。

○国は、災害発生時に迅速な派遣が可能な災害派遣医療チーム(DMAT)に参加する、医師、看護師等に対する教育研修を推進するものとする。

○国、地方公共団体及び医療機関は、災害時に医療施設の診療状況等の情報を広域災害・救急医療情報システム等により迅速に把握し、応援の派遣等を行うものとする。

佐藤保, 災害時の『食べる』を支えるシンポジウム, 2016年3月12日, 東京医科歯科大学

中長期の医療提供体制【都道府県の役割】

現行・災害時における初期救急医療体制の充実強化について(健政発第451号)

記載無し

医療提供体制確保の考え方

都道府県は、派遣元の関係団体(日本医師会、大学病院、赤十字病院、国立病院機構、日本病院会、全日本病院協会、日本歯科医師会、日本薬剤師会、日本看護協会等)と受入医療機関等の調整を行う災害対策本部内の組織(派遣調整本部(仮称))の設置に関する計画を、事前に策定しておくこと。
また、派遣調整本部(仮称)には、地域の医療ニーズを的確に把握し、救護班等の調整を行うコーディネイト機能が十分に発揮されるような体制を備えておくこと。

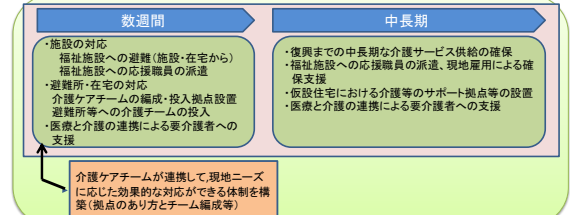
佐藤保, 災害時の『食べる』を支えるシンポジウム, 2016年3月12日, 東京医科歯科大学

災害時の介護等のあり方について

「被災時から復興期における高齢者への段階的支援とその体制のあり方の調査研究」

○災害時には、介護施設や在宅要介護者などのいわゆる災害弱者に対する支援が重要。支援に当たっては、医療と介護が連携して中長期的な支援を行う必要がある。
○災害時の医療・介護についてステージごとの共通課題、連携のあり方などを検討するため、「被災時から復興期における高齢者への段階的支援とその体制のあり方の調査研究」を別途実施(24年3月末を目途に取りまとめ予定。委員長 岩手県立大学教授 狩野 徹)

災害時の医療・介護についてステージごとの共通課題、連携のあり方などを議論



佐藤保, 災害時の『食べる』を支えるシンポジウム, 2016年3月12日, 東京医科歯科大学

今までの経験、実践から 食べるを支える振り返ってみる

- ・ 歯科医療のチカラ
- ・ 要介護者の口腔ケア
- ・ 口腔ケアや嚥下訓練と食形態
- ・ 高齢者への調査
- ・ 子供たちのむし歯の課題

佐藤保, 災害時の『食べる』を支えるシンポジウム, 2016年3月12日, 東京医科歯科大学

口腔ケアおよび嚥下訓練指示3ヶ月後の食事風景

H16.4 の食事内容



H16.7 の食事内容



佐藤保, 災害時の『食べる』を支えるシンポジウム, 2016年3月12日, 東京医科歯科大学

岩手県80歳・85歳の調査項目

診 査	具体的な調査項目
内科健診	身長、体重、BMI、視力、心電図、骨密度、問診、血圧、血液検査(総蛋白、Albumin、GOT、GPT、γ-GPT、クレアチニン、総コレステロール、HDLコレステロール、中性脂肪、Ca、無機リン、血糖値、IgG、IgA、IgM)
体力測定	握力、脚伸展力、ステップング、開眼片足立ち
生活状況	ADL、QOL(SF36)、咀嚼能力、日常生活動作遂行能力、活動能力指標、食事調査、痴呆、ストレス
口腔診査	現在歯、DMFT、補綴物、CPI、LA、唾液検査、歯垢検査、舌苔検査、口臭測定、咬合力、アイヒナーの分類、床義歯装着時期

佐藤保, 災害時の『食べる』を支えるシンポジウム, 2016年3月12日, 東京医科歯科大学

80歳から85歳までの変化

項 目	80歳時	85歳時
有歯者の割合	45.1%	→ 40.5%
一人平均の歯数(±SD)	5.04	→ 4.35(±7.13)(±7.57)
ADL厚生省分類J1の割合	83.2%	→ 68.8%
最近の体調が良い	43.0%	→ 30.1%
プレスロー健康習慣(平均点)	4.30	→ 4.77
開眼片足立ち(平均秒数)	19.54	→ 5.42
この1年で大きく体重が減少しない	18.6%	→ 32.3%
1日に2回以上の歯磨き	40.1%	→ 39.1%
義歯を持っている	86.4%	→ 90.0%
ピーナッツを噛める	76.3%	→ 31.9%
交流、社会活動(家族友人と交流)	92.0%	→ 78.1%

佐藤保, 災害時の『食べる』を支えるシンポジウム, 2016年3月12日, 東京医科歯科大学

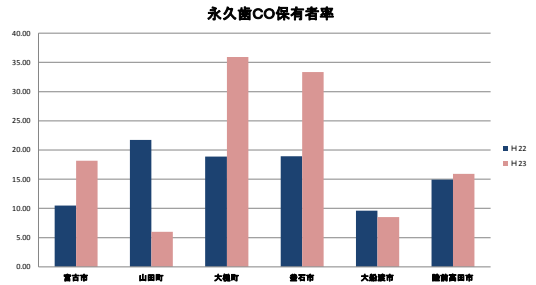
介護予防のためには、政策が必要。
そのための根拠として、この調査は、

- 大きくマイナスになる要因を防ぐ。
→重症化予防。加齢に伴い、誰にでも起こりうる要因。(筋トレ、閉じこもり予防、低栄養改善)
- プラスになる要因を増進する。
→長生きの秘訣。健康増進に必要な予防。(低栄養改善、口腔機能改善(入れ歯))

平成17年岩手県議歯科医療問題懇談会

佐藤保, 災害時の『食べる』を支えるシンポジウム, 2016年3月12日, 東京医科歯科大学

沿岸被災地区12歳児比較



佐藤保, 災害時の『食べる』を支えるシンポジウム, 2016年3月12日, 東京医科歯科大学

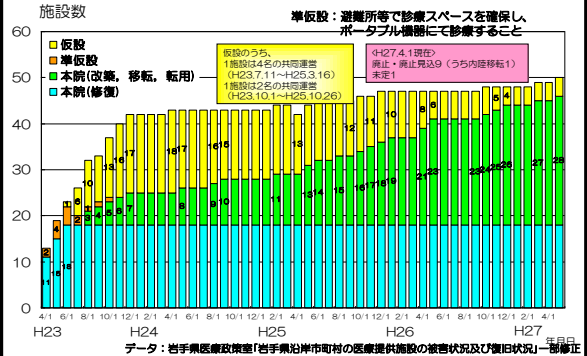
歯科口腔保健法が目指す方向

地域も国民も健康
であるように取り
組む。

国や都道府県
と関係者、国民
がそれぞれに
役割を持って
考え方を
共有して

佐藤保, 災害時の『食べる』を支えるシンポジウム, 2016年3月12日, 東京医科歯科大学

岩手県沿岸地域の被災した歯科診療所の再開状況



佐藤保, 災害時の『食べる』を支えるシンポジウム, 2016年3月12日, 東京医科歯科大学

被災地における口腔ケア等の歯科保健活動の実績

実施箇所数	実施箇所数		(内訳)	
	実施箇所数	(内訳)	応急仮設住宅集会所等	高齢者福祉施設等
平成23年度 (9月~)	244		195	49
平成24年度	237		177	60
平成25年度	255		190	65
平成26年度	143		122	21

被実施者数	被実施者数					要支援者に係る市町村等への情報提供数
	歯科健診 歯科相談	清掃指導	間食指導	口腔ケア	普及啓発	
平成23年度 (9月~)	2,022	2,022	1,827	34	1,759	1,980
平成24年度	2,434	2,434	1,901	158	1,951	2,426
平成25年度	2,371	2,248	1,714	8	1,713	2,292
平成26年度	801	健診 588 相談 281	472	108	336	801

データ: 岩手県歯科保健課「被災地口腔ケア推進事業実績」

佐藤保, 災害時の『食べる』を支えるシンポジウム, 2016年3月12日, 東京医科歯科大学